

# 学校・教育グループ

学校・教育グループの質問を始めます。

私たちのグループでは、学校でのICTの活用や子供たち夢の実現に向けた支援について話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

## 質問1 ICTを活用した授業の充実について

現在、学校では、国が進めるGIGAスクール構想により、1人1台のパソコン整備や校内LAN等の通信環境ネットワークの整備が進んでいます。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、公立小中学校での1人1台のパソコン整備は加速され、報道によると昨年度末時点で全国の96.5%の公立小中学校で整備されています。

一方で、利用したくても授業で使うことができなかつたり、パソコンやタブレットを活用した自由な学びの時間がなかつたりするなど、授業の中でICTが有効に活用されているとは言えないと思います。

オンライン授業や学習教材の配信などでの利用は進みましたが、個別の授業内での利用においては、地域や学校によっても活用状況に差があります。

また、ICTの活用においては、総合的な学習の時間での利用も有効だと思いますが、探究の時間においては、特定の内容についてでない調べることができないことや、授業時間も十分ではないと感じています。

児童生徒が、興味関心のあることを追究することができる授業を増やし、その中で、ICTをもっと活用していくことが必要だと思います。

そこで提案です。一人一台のパソコンが整備された環境を最大限生かし、学校の授業や活動においてもっとパソコン、タブレットを活用することで、学習内容を充実してはどうでしょうか。

例えば、児童生徒が興味関心を持ったことをもっと自由に学習できる授業として、探究の時間を増やすとともに、その授業の中で、ネット検索による情報収集や課題の整理分析、資料作成などに、パソコンを活用することが考えられます。

共通の課題意識を持った他の学校の児童生徒とネットを通じてつながり、意見や情

報を交換することで、学習の理解も深まります。

こうした取組により、児童生徒が、個別の課題に主体的に取り組むことで、学びの面白さを知ることができ、学習の質も向上すると思います。

答弁（教育長）

広島県では、1人1台のパソコンの整備によって、児童生徒の皆さんが、デジタル機器を日常的に活用しながら、人に言われてではなく、自ら積極的に学ぶということを目指しています。

例えば、廿日市市立宮園小学校では、子供たちが学習計画表を自分で作り、教科書やAI型タブレット教材など、多くの選択肢の中から自分に合った学習方法を選択し、自分のペースで学ぶ自由進度学習を行っています。

そうすることにより、表現力などが向上し、勉強への理解度や満足度が高まっています。

このほかにも、いち早く1人1台のパソコンを導入した広島叡智学園中学校や多くの県立高等学校では、Google Workspace for EducationやJambordを活用した協働学習を行うことで、生徒同士で互いに様々な意見があることを理解したり、共に課題解決に当たったりする場面がみられるようになっています。

皆さんも、デジタル機器を使った様々な学びにチャレンジするとともに、このような使い方で学びたいということを学校の先生に提案してみてください。

## 質問2 子供たちの夢の実現に向けた支援について

まずは、留学のための支援の充実についてです。

私は、もっと外国の文化などについて知りたいと考え、中学生になったら留学したいと思っています。

私のように留学したいと思っても、経済的な理由で留学できない子供たちがいたら残念に思います。子供たちが経済的な理由で諦めることなく、留学できる広島県であつたらいいと思います。

広島県には、高校生等の留学のための助成金や返済が必要な奨学金もありますが、希望する子供たちにとって十分なものでしょうか。

そこで提案です。意欲があり実力もある中高生が留学したいという願いをかなえることができるように、留学のための助成金を充実してはどうでしょうか。

例えば、英語の成績が何点以上なら助成されるなど、子供たちが頑張れば、負担が少なくすむような仕組みをつくることが考えられます。

今後、社会や学校でも外国の人が増えてくると思います。留学したいと思う子供たちの夢をかなえることで、社会で活躍できる人が増えると思います。

次に、進路を選択・決定するための取組の充実についてです。

私は、現在、中学校3年生で高校受験を控えています。今後、進路を決定する必要があります。夏休みなど長期休業の間に、受験に向けて勉強しようとしても、どのように受験対策をしたらよいのかわからないことがあります。受験の情報や行きたい学校の情報が塾へ行っている人のほうが詳しいこともあります。

また、中学校では、どんな職業があるのか調べる授業はあっても、職場体験などは、一度のみで、将来のために、もっといろいろな職業について専門的なことを詳しく学べる機会があったらいいと思います。

そこで提案です。子供たちが、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志で進路を選択・決定することができるように、中学校段階から様々な職業を実際に体験する機会をもっと増やすことと、塾との連携など進路選択のための進路指導の充実を図ることはできないでしょうか。

こうした取組により、子供たちが自分の将来を見据え、もっと意欲的に勉強したりすることで、学力の向上や進路選択の幅が広がると思います。

#### 答弁（教育長）

まず、留学のための支援の充実についてです。皆さんが、これからの社会で活躍するためには、世界の多様性を理解し、外国の方ともコミュニケーションを図る力が必要であると考えています。

こうした力を付けるためには、海外に留学して、外国の人と交流し、日本とは異なる文化や考え方に触れることも重要だと思います。留学を目指すことは素晴らしいことです。

実は、既に広島県教育委員会では、子供たちが経済的な理由で留学をあきらめることがないように、これまで高校生の留学費用を助成する制度や無利子で留学奨学金としてお金を貸す制度（例えば、10万円借りたら普通は1%から2%の利子をつけて、少し多く払うところを10万円だったらそのまま10万円）を設けており、成績が一定基準以上で意欲のある生徒全員に留学のための支援をしてきました。

そして、何とかした留学支援に取り組んできた結果、広島県の県立高校における生徒1,000人当たりの留学者数は、全国で1位となりました。

引き続き、留学に対する支援を続けていきたいと考えていますが、現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で、海外への留学自体が難しい状況です。

そのため、中学生も参加できる留学経験者との交流を行うオンラインイベントを開催したり、県教育委員会のホームページでいろいろな会社が行う無料のオンラインプログラムを紹介したりしています。

コロナの影響で留学が難しい今の期間は、こうしたオンラインでのイベントに参加したり、語学の学習をするなど、留学に向けた準備を行っていただき、留学が可能となったら、県の支援制度も活用して海外に飛び立ち、貴重な経験を積んでいただきたいと思います。ぜひ頑張ってください。

2つ目は、進路を選択・決定するための取組の充実についてお答えします。

皆さんが、学校での学びと自分の将来とのつながりを感じながら、夢の実現に向かって進路を選択していくことは、大変重要なことです。また、大人である私たちがそのためのナビゲーター役になることは必要なことです。

こうしたことから、中学校では、職場体験を5日間しっかりと行うなどの取組を進めてきました。

実は、全国でも5日間の職場体験をしている県はそんなに多くありません。

しかし、百聞は一見に如かずという言葉もあるように、実際の体験から「働く」ということはどういうことなのかを感じ取ってもらい、どんな仕事に就いても「働くとは、はた（つまり、自分の周りの人を）を楽にするんだ」「人の役に立つんだ」ということを学び取ってもらいたいと思って、学校も地域の皆さんにご協力をしてもらいながら一生懸命、職場体験先を探してくれています。

現在は、コロナ禍で職場体験に行くことは感染状況によっては難しいものの、オンラインで学校と企業を繋いだ出前授業を行って、職場の様子を見せてもらったり、生徒の質問に直接答えてもらったりするなど、その代わりとなる工夫をしている学校もあります。

また進学についてですが、どの高等学校も、学校の魅力や特色等を知ってもらうために、コロナ禍であっても、感染対策を行いながらオープンスクールや説明会を行っています。

親が言うから、先生が言うから、塾で言われたからというだけではなく、1人1台

のパソコンがあるのですから、スマホやタブレットで進路に関するいろいろな情報を調べ、とにかく自分の目で確かめる、その場に身を置いてみて自分自身が決断をすることも大切だと思います。

私の経験で言うと、私はこれまで、留学をしたり、会社を作ったり、広島県の教育長になったりといった人生の転換点では、必ず実際に自分でその場所へ行って見て、自分はここでやっていけるのかを考え、自分で決断をしてきました。

皆さんが自分の夢や希望の実現に向けて、進路を選択・決定することができるよう、教育委員会としても全力で応援していきます。